




SICP87-88 / STEREO

©1974, 1975, 1977, 1978, 1998, 2001 Sony Music Entertainment Inc.  
©2001 Sony Music Entertainment Inc. / Manufactured by Sony Music Japan  
International Inc. /  is a Trademark. (S) / WARNING - All Rights Reserved.  
Unauthorized duplication is a violation of applicable laws.

EQS

## SET LIST

BEYOND BEAUTIFUL  
LOVE IN AN ELEVATOR  
JADEO  
BIG TEN INCH RECORD  
PINK  
MAMA KIN  
LIGHT INSIDE  
DREAM ON  
EAT THE RICH  
DROP DEAD GORGEOUS  
DRAW THE LINE  
RATS IN THE CELLAR  
WALKIN' THE DOG  
JUST PUSH PLAY  
CRYIN'  
I DON'T WANT TO MISS A THING  
MOTHER POPCORN / WALK THIS WAY  
UNCLE SALTY / SWEET EMOTION

LIVIN' ON THE EDGE  
WHAT IT TAKES  
TRAIN KEPT A ROLLIN'

2001/11/12  
NEW YORK,  
MADISON SQUARE GARDEN

「いつまでバカやってんだ?」「もう若くはないんだから」…。20代も後半に差し掛かってくると、こんな訳知り顔なフレーズが聞こえてくるものだが、そういうことをホザいているヤツらには、エアロスミスのステージを体験してもらいたい。大成しても進化できるってことを、若さだけがガムシヤラの原動力ではないってことを、十二分に体現して余りある彼らのステージ。今年(2001年)は2回も彼らのコンサートを観る機会に恵まれた。“Just Push Play” ツアーが開始されて間もない6月と、一旦全米をグルリと一周してからの11月。どちらもニューヨークだが、1回目は郊外にあるジョーンズ・ビーチという屋外シアターで、2度目はマンハッタンのド真ん中に位置するマディソン・スクエア・ガーデンという屋内アリーナで。環境も違えば、エアロ自身の状況もまったく違う対照的なふたつのコンサートだったが、両者を比較しながらエアロのいまをたっぷりと満喫することができた。

まずはアルバム「Just Push Play」リリース直後のコンサート。そこでぶったまげたのが、何と言っても彼らのスタミナである。もちろんエアロはハードロック・バンドだし、これまでからして激しいサウンドとアクションに定評があったという

ものの、円熟期に入った彼らがここまで激しいステージングを繰り広げるとは思ってもみなかった。メンバー全員、身のこなしが軽いつたらありゃしない。中でもスティーヴンはステージ上を所狭しと駆けずり回りながら、歌って、踊って、煽って、身体をぎゅうぎゅうに擦りまくって絶叫して、大口開けてと、もう一瞬たりともじっとしていない。そのうちペースダウンするんだろうな、こんなじゃ最後まで通せるはずない、と最初のうちは高をくくっていたけれど、結局とうとう最後まで、そのハイペースとハイテンションは崩されなかった。う〜ん、凄まじい。さすがに1時間以上走り回った挙句に、ステージ・セットの一部を使って懸垂をやり始めた時には、この53歳のおっさんはどうなってんだ? この馬力は一体どこから出ているんだ? とマジで考え込んでしまったが。あのマドンナでさえ最新ツアーでは極力動きを控えて、その代わりに違ったタイプのスペクタクルを引き出そうとしていたというのに、このエアロはあくまでも生身の肉体をふんだんに駆使して(というより酷使?) オーディエンスに挑んでくる。昔ながらの直球勝負というやつだ。

もちろんスタミナの膨大さばかりに驚いていたわけではない。そのスタミナを燃料に突進してゆ

く彼らのステージを見守りながら、今回ばかりはふたつの点で感動を覚えた。ひとつは、これでもかこれでもかって言うほど突き詰めまくった観のあるエンターテイナーとしての資質。オープニングの“Beyond Beautiful”でステージに出てきた瞬間から、アンコールの最後の最後まで、一瞬たりともスキを与えない。もうとことんオーディエンスを楽しませてやるぞって気迫に満ち満ちている、どこかで何かしらが常に起こっているのだ。ジョーはほとんど一曲毎にギターを持ち替えるし、先にも触れたスティーヴンは激しく動いているか、歌っているか、ハーモニカを吹いているか、じゃなきゃドラムセットにいるジョーイと向き合って全身でリズムを刻んでいるか。そこにトムとブラッドが絡み、さらに今回はエアロスミスの歴史始まって以来というビッグ・スクリーン(あらかじめ用意されたビデオ・クリップからの編集映像と、ちょうど目前で起こっている生映像とのコラージュ)が加わってしまうのだから、こりゃロックンロール・サーカスと呼ぶしかない。四方八方から刺激を受けて、あれも観なきゃこれも観なきゃと忙しくも嬉しいエンターテインメントのてんこ盛り大会なのだった。

そして感動のふたつめが、そういう賑やかなヴ

イジュアルとは裏腹に、じっくりと腰を据えた彼らの演奏だ。いわゆる焦点の定まったプレイというやつで、集中力がピンピンに張り詰めている。ハイテンションにかっ飛ばした“Love In an Elevator”、ダイナミックに盛り上げた“Dream On”、ロマンチックに酔わせた“Seasons Of Wither”。曲調やムードはそれぞれ違うが、どれを探っても狙いはことのほか明確で、きちんとコンサート全体の流れの中に組み込まれている。中でも“Rattlesnakes Shake”は鳥肌もの。セクシーに腰を揺らしながらリズムを取るスティーヴン。彼による絶叫とハーモニカのワンマン・バトル(?)も凄かったけど、何と言ってもゆっくり煮詰めていったバンドのジャム演奏が、まるで綱渡りをしているかのようにギリギリのところまでロックしているテンションを生んでいた。ジョーとブラッドによるギター・バトルも壮絶この上なかったし。こんなにのめり込んでいいのかな、と思ってしまうほど。無我の境地っていうやつだ。正直言って、いまのエアロからこんなに怪しい魅力、危ういロックンロールの芳香が立ち上がってくるとは思いも寄らなかっただけに(失礼!)、嬉しいやら、彼らの底力を改めて思い知らされるやら。だって4半世紀以上もやってるバンドが、未だ初期

衝動を呼び戻せるなんて、どう考えたってただ事じゃない。とはいえ、これはテクニックや経験だけではどうにもコントロールできないことらしく、実は今年2度目に観たコンサートでは、いまひとつ弾け切れないで、そっちの世界にまでは昇華できないでいた。それというのも、実はスティーヴンの喉の調子が芳しくなかったからで(ステージではそんな不調は微塵も感じさせなかったが。さすがプロ!)、直前のコンサートは5日間も急遽キャンセル→延期となっていたほど。病み上がり第一弾のコンサートただだけに、いまひとつ調子が出し切れなかったのは当然といえば当然かもしれない。ステージングに関しては何一つ不安材料はなかったが、前回のコンサートでぶっ飛んでいたばかりとしては、何か欠けていたのは明らか。つまり精神性というか、スピリットが病んでいた。でもそれも裏を返せば、彼らがテクニックや演出のみに頼るのではなく、スピリットでロックするバンドだから、という証ししてことだろう。

あと付け加えておきたいのが、米オーディエンスの理解度の深さに関して。彼らの反応を見ると、本当にエアロのことをよく分かっていて、彼らの音楽を愛しているんだなぁと痛感する。たとえば“I Don't Want To Miss A Thing”よりも

“Dream On”に狂気乱舞するようなファンたち、て言えば分かってもらえるだろうか? もちろん若いファンだってみんなちゃんと曲を知ってるし、長年に渡ってじっくりアルバムを聴き込んできた老舗ファンたちは、演奏曲目に一喜一憂するというよりも、演奏の内容に対してリスpons。厳しい客ではあるけれど、驚異的なプレイが飛び出してきた時には、惜しみなき拍手と声援を送っている姿が印象的だった。こういうファンを相手にしているのだから、エアロのほうだってやりがいはあるってもの。そういうファンのサポートがあって初めて、今日までやってこれたんだろうし。もちろんサポートという意味では、日本のファンだって負けてはいないはず。来年(2002年)1~2月に予定されている来日公演では、是非とも日本のファンだって成熟しているぞってところを見せてほしいのだが。それにしても、スティーヴンは日本でも懸垂してくれるのだろうか? と、いまから気になって仕方がない。

2001年11月 ニューヨークにて  
村上ひさし/Hisashi Murakami



## JUST PUSH PLAY WORLD TOUR

Date	Venue	City/State
June 6	CTNow.com Meadows Music	Hartford, CT
June 8	Saratoga Performing Arts Center	Saratoga, NY
June 10	PNC Bank Arts Center	Holmdel, NJ
June 12	PNC Bank Arts Center	Holmdel, NJ
June 16	Jones Beach	Wantagh, NY
June 17	Wango Tango Radio Show	Los Angeles, CA
June 18	Jones Beach	Wantagh, NY
June 20	Jones Beach	Wantagh, NY
June 22	Hershey Park	Hershey, PA
June 24	Nissan Pavilion	Washington, DC
June 26	Tweeter Center	Boston, MA
June 28	Tweeter Center	Boston, MA
June 30	Post Gazette Pavilion	Pittsburgh, PA
July 2	Molson Amphitheatre	Toronto, Canada
July 5	Tweeter Center	Tinley Park, IL
July 7	Alpine Valley	East Troy, WI
July 9	Verizon Wireless Music Center	Indianapolis, IN
July 11	Polaris	Columbus, OH
July 13	DTE Energy Music Theatre	Detroit, MI
July 15	Darien Center	Darien, NY
July 17	Blossom Music Center	Cleveland, OH
July 19	Riverport Amphitheatre	St. Louis, MO
July 21	Sandstone Amphitheater	Kansas City, MO
July 23	Fiddler's Green	Denver, CO
August 8	Shoreline Amphitheater	Mountain View, CA
August 10	The Gorge Amphitheater	Seattle, WA
August 12	Sacramento Valley Amphitheater	Sacramento, CA
August 14	Chronicle Pavilion	Concord, CA
August 16	Coors Amphitheater	Chule Vista, CA
August 18	MGM Grand Garden	Las Vegas, NV
August 20	Verizon Wireless Amphitheater	Irvine, CA
August 24	Glen Helen Blockbuster Pavilion	San Bernadino, CA
August 26	Cricketer Pavilion	Phoenix, AZ
August 28	Verizon Wireless Amphitheater - San Antonio	Selma, TX
August 30	Woodlands Pavilion	Woodlands, TX
September 1	Smirnoff Music Center	Dallas, TX
September 3	New Orleans Arena	New Orleans, LA
September 5	Pyramid Arena	Memphis, TN
September 7	Riverbend Music Center	Cincinnati, OH
September 9	Verizon Wireless Amphitheatre - Charlotte	Charlotte, NC
September 17	Hi-Fi Buys Amphitheater	Atlanta, GA

Date	Venue	City/State
September 19	AmSouth Amphitheater	Antioch, TN
September 21	ALLTEL Pavilion at Walnut Creek	Raleigh, NC
September 23	Mars Music Amphitheater	West Palm Beach, FL
September 25	Nissan Pavilion	Bristow, VA
September 27	Tweeter Center At the Waterfront	Camden, NJ (Philadelphia)
October 11	Progress Fieldhouse	Calgary, AB, Canada
October 13	Skyreach Centre	Edmonton, ALB, Canada
October 15	Target Center	Minneapolis, MN
October 17	Alerus Center	Grand Forks, ND
October 19	Hilton Coliseum	Ames, IA
October 21	Conseco Fieldhouse	Indianapolis, IN
October 23	Allstate Arena	Rosemont, IL
October 25	Place of Auburn Hills	Auburn Hills
October 31	Molson Centre	Montreal, QUE, Canada
November 2	E J Nutter Center	Dayton, OH
November 12	Madison Square Garden	New York, NY
November 15	Continental Arena	East Rutherford, NJ
November 17	Manchester Verizon Wireless Arena	Manchester, NH
November 19	Mohegan Sun Arena	Uncasville, CT
November 27	Ice Palace Arena	Tampa, FL
November 29	National Car Rental Center	Fort Lauderdale, FL
December 3	Assembly Hall	Champaign, IL
December 5	Reunion Arena	Dallas, TX
December 7	Alltel Arena	Little Rock, AK
December 9	Myriad Convention Center	Oklahoma City, OK
December 11	Savvis Center	St. Louis, MO
December 13	Kemper Arena	Kansas City, MO
December 15	Mark Of The Quad Cities	Moline, IL
December 17	Gund Arena	Cleveland, OH
January 5	Pepsi Center	Denver, CO
January 7	Delta Center	Salt Lake City, UT
January 9	Compaq Center at San Jose	San Jose, CA
January 13	The Forum	Los Angeles, CA
<Japan Tour>		
January 25	Osaka Dome	Japan
January 27	Osaka Dome	Japan
January 29	Fukuoka Dome	Japan
January 31	Nagoya Dome	Japan
February 2	Tokyo Dome	Japan
February 3	Tokyo Dome	Japan

(2001年12月7日現在)

## HISTORY

1948年3月26日

スティーヴン・タイラー、ニューヨークで誕生。

(本名：Stephen Victor Tallarico)

1950年6月22日

ジョーイ・クレイマー、ニューヨークで誕生。

(本名：Joseph Michael Kramer)

1950年9月10日

ジョー・ペリー、マサチューセッツ州ローレンスで誕生。

(本名：Anthony Joseph Perry)

1951年12月31日

トム・ハミルトン、コロラド州コロラド・スプリングスで誕生。

(本名：Thomas William Hamilton)

1952年2月23日

ブラッド・ウィットフォード、マサチューセッツ州ウィンチェスターで誕生。(本名：Brad Earnest Whitford)

1964年

スティーヴン、バンドを結成。ドラムス担当。

1965年

トム、兄の影響を受け、ギターを弾き始める。のちにベースに転向。

1967年

スティーヴンとジョーイ、同時期にニューヨークの北ヨンカーズにあるルーズベルト高校を退学処分となる。スティーヴン、チェイン・リアクションというバンドを結成。ドラマー兼ヴォーカリストとなる。

ブラッド、ギターを弾き始める。

1968年

3月、スティーヴン、チェイン・リアクションでヤードバズ・ニューヨーク公演の前座を務める。

ジョーイ、パークレー音楽大学に入学。が、数カ月でドロップ・アウト。

1969年

ジョー、大学予備校終了間際にドロップ・アウト。

トム、高校卒業後、コロラドからニュー・ハンプシャーへ引越す。トムとジョーが出逢い、意気投合。ザ・ジャム・バンドを結成する。スティーヴン、チェイン・リアクションで地元では有名となる。

1970年

夏、ジョー、バイト先の常連客だったスティーヴンに、トムと組んでいたザ・ジャム・バンドのライヴに誘う。スティーヴン、ジョー&トムと組むことを決意。「下手だったがヴァイヴがあった」スティーヴン、後輩のジョーイを誘って、自分はヴォーカルに専念することに。また、友人のレイモンド・タバノをもう一人のギタリストにする。

5人でボストンに出、アパートで共同生活を始める。

1971年

ハードな日々からレイモンド・タバノ脱落。後釜として、ブラッド・ウィットフォードが入る。地道なライヴ活動を続ける。

1972年

地元プロモーターのフランク・コネリーが、当時の大手マネージメント、デイヴィッド・クレヴス&スティーヴ・リーパーに紹介。所属マネージメントを持ち、コロンビアとメジャー契約を果たす。

1973年

1月、デビュー・アルバム『Aerosmith』(邦題『野獣生誕』)リリース。

3月、キンクス、シャナナ、マハビッシュ・オーケストラなどのオープニング・アクトとして、全米ツアーに出る。

1974年

3月、ジャック・ダグラスのプロデュースで、セカンド・アルバム『Get Your Wings』(邦題『飛べ! エアロスミス』)リリース。ツアー続行。

1975年

4月、3枚目のアルバム『Toys In The Attic』(邦題『闇夜のヘヴィ・ロック』)リリース。過去最高売り上げを記録する。

5月、日本での事実上デビュー。『飛べ! エアロスミス』がデビュー・アルバムとして発売される。

東海岸のみならず、西海岸でもツアーを成功させる。

1976年

1月、再発されたシングル「Dream On」が、ビルボード誌で最高6位をマーク。日本でも、やっとアルバム「野獣生誕」発売。  
4月、メイン・アクトとなって全米ツアーをスタート。  
5月、アルバム「Rocks」(邦題「ロックス」)をリリース。すぐにプラチナ獲得。  
10月、初のヨーロッパ・ツアー開始。スティーヴンの体調不良で、後半はキャンセル。  
11月、シングル「Walk This Way」ビルボード誌最高10位。

1977年

1月、初来日。群馬、東京2公演、名古屋、京都、大阪、福岡全7公演。オール・ソールド・アウト。  
8月、2度目のヨーロッパ・ツアー。  
10月9日、フィラデルフィア公演で、ステージに火花を投げ込まれ、スティーヴンとジョーが負傷する。  
12月7日、ジョー・ペリー自宅全焼。  
12月9日、5枚目のアルバム「Draw The Line」(邦題「ドロー・ザ・ライン」)をリリース。発売と同時にプラチナ獲得。  
スティーヴンとジョーの確執表面化。

1978年

Back To The Rootsツアーと名打ち、クラブ周りのツアーを敢行。映画「Sgt. Peppers Lonely Hearts Club Band」にF.V.B.(Future Villain Band)として出演。  
3月、カリフォルニア・ジャム2に出演。(共演:テッド・ニュージェント、サンタナ、デイヴ・メイソン、マホガニー・ラッシュなど)  
7月、テキサス・ジャムに出演(共演:テッド・ニュージェント、ハート、ジャーニー、ヴァン・ヘイレン、エディ・マネーなど)  
7月、映画「Sgt. Peppers Lonely Hearts Club Band」のサントラ盤発売。  
11月、初のライブ・アルバム「Live! Bootleg」(邦題「ライブ・ブートレグ」)をリリース。

1979年

アルバム製作を中断して出たツアー中、スティーヴンとジョーの確執が決定的となり、ジョーが離脱。  
11月、プロデューサーにゲイリー・ライオンズを迎え、ジョー・ペリー抜きで仕上げたアルバム「Night In The Ruts」(邦題「ナイト・イン・ザ・ラッツ」)をリリース。

11月16日、ジョー・ペリー・プロジェクト、ボストンでデビュー・ライブを行なう。

1980年

新たなギタリスト、ジミー・クレスポを迎え、ツアー再開。しかし、スティーヴンの体調不良により、日程途中でキャンセル。  
3月、ジョー・ペリー・プロジェクト、デビュー・アルバム「Let The Music Do The Talking」(邦題「熱く語れ」)をリリース。  
秋、スティーヴンがオートバイ事故を起こす。同乗者から訴えられ、本人も足に重傷を負い、長期入院となる。  
10月、エアロスミス初のベスト盤「Greatest Hits」(邦題「グレイテスト・ヒッツ」)をリリース。

1981年

6月、ジョー・ペリー・プロジェクト、2枚目のアルバム「I've Got The Rock'n Roll」(邦題「忘れじのロックンロール」)をリリース。  
8月、ブラッド・ウィットフォード、デレク・セント・ホルムズと組んでアルバム「Whitford/St. Holmes」(邦題「ウィットフォード/セント・ホルムズ」)をリリース。直後、エアロスミス説退を表明。

1982年

ブラッドの後にリック・ダフィを加える。  
9月、通算7枚目のオリジナル・アルバム「Rock In A Hard Place」(邦題「美獣乱舞」)をリリース。

1983年

ツアー再開。が、すぐにスティーヴンが体調不良で、3月、ステージ上で倒れる。  
9月、ジョー・ペリー・プロジェクト、コロンビアからゲフィンに移って、3枚目のアルバム「Once A Rocker Always A Rocker」(邦題「いつまでも熱く」)をリリース。

1984年

2月11日、ボストンで行なわれたエアロスミスのバレンタイン・ライブに、ジョーとブラッドが顔を出す。のち、トムの家には5人が集合し、再出発について話し合う。  
5月、オリジナル・メンバーによるBack In The Saddleツアーを開始。

1985年

ティム・コリンズが正式にエアロスミスのマネージャーとなり、A&Rのジョン・カロドナーと組んでゲフィンと契約。

11月、プロデューサーにテッド・テンブルマンを迎え、復活第一弾通算8枚目のオリジナル・アルバム「Done With Mirrors」(邦題「ダン・ウィズ・ミラーズ」)をリリース。

1986年

4月、コロンビアがアルバム「Classics Live」(邦題「ライヴ・クラシックス」)をリリース。  
同時に、「California Jam 2」もリリースされる。  
7月、Run D.M.Cが、ラップ・ヴァージョン「Walk This Way」を発売。ビルボード誌最高位4位のヒットとなる。スティーヴンとジョーも、同曲のビデオ・クリップに出演。  
秋、スティーヴンとジョーがツアーの合間に、完全にドラッグを断ち切る。

1987年

8月、コロンビアから「Classics Live II」(邦題「ライヴ・クラシックス2」)がリリースされる。同じ月、プロデューサーにブルース・フェアバーンを迎えて、アルバム「Permanent Vacation」(邦題「パーマネント・ヴァケーション」)をリリース。過去最高の大ヒットを記録。  
12月、映画「Less Than Zero」サントラ盤発売。

1988年

ヨーロッパを含むワールド・ツアー開始。6月、11年ぶり2度目の来日。  
11月、アルバム「Gems」(邦題「ジェムズ」)をリリース。  
ビデオ「Scrapbook」,「3x5」,「Texas Jam '78」発売。

1989年

6月、アリス・クーパーのアルバム「Trash」にスティーヴン、ジョー、トム、ジョーイが参加。  
8月アルバム発売前より「Pump」ツアーをヨーロッパから開始。  
8月19日、ボン・ジョヴィのロンドン公演に、スティーヴンとジョーが飛び入り参加。  
9月、アルバム「Pump」(邦題「パンプ」)をリリース。最高売上げ記録更新。  
11月、アメリカに戻り、エクストリーム、ブラック・クロウズらに従え、全米ツアー開始。

1990年

MTV「アンブラグド」に出演。  
初のオーストラリア・ツアー敢行。

6月、映画「Air America」サントラ盤発売。  
8月、イギリスでモンスターズ・オヴ・ロック出演。同月20日ロンドンのクラブでジミー・ペイジと共演。  
9月、3度目の来日。  
MTVミュージック・アワードで3部門受賞。  
ビデオ「Things That Go Pump In The Night」発売。

1991年

8月、ソニー・ミュージックと再び契約を結ぶ。  
「ジェイニーズ・ガット・ア・ガン」で、グラミー賞受賞。  
TVアニメ「The Simpsons」に登場。  
地元の代表的なコンサート会場ボストン・ガーデンで、「名誉の殿堂」入り。  
MTV10周年記念特番で、ボストンのワング・センターにて「Dream On」をオーケストラと共演。  
11月、貴重な音源を集めたCD3枚組ボックス・セットの「Pandora's Box」(邦題「パンドラの箱」)をリリース。12月、シングルとして「Sweet Emotion」を再発。ビデオも作る。  
ビデオ「The Making Of Pump」発売。

1992年

ボストン・ミュージック・アワードで、最優秀ロック・バンド賞と最優秀ロック・ビデオ賞を受賞。  
反検閲運動を指示し、助成金を断ち切られたボストンのマサチューセッツ工科大学のThe List Visual Arts Centerに1万ドルを寄付する。  
アメリカの若者に、大統領選への投票を呼びかける為の大規模な全国テレビ・キャンペーン用に、「ロック・ザ・ヴォート」のビデオを収録。

1993年

4月、ゲフィンから通算11枚目のアルバム「Get A Grip」(邦題「ゲット・ア・グリップ」)をリリース。1,600万枚という驚異的な数字を記録。  
地元ボストンのタワー・レコードで、ウォーク・オヴ・フェイム第1号となる。MTVビデオ・ミュージック・アワードで「視聴者が選ぶ最優秀賞」を受賞。ビルボード・ミュージック・アワードでは、最優秀ロック・アクト賞を受賞。  
11月、アルバム「The Beavis & Butthead Experience」,「The New Sound - Strung Out」,「Guitar World Compilation」,映画「Last Action Hero」サントラ盤発売。

12月、映画「Wayne's World 2」サントラ盤発売。同TV番組にも出演。

#### 1994年

MTVビデオ・ミュージック・アワードで3部門受賞。アメリカン・ミュージック・アワードで、2部門受賞。「Livin' On The Edge」で、グラミー最優秀ロック・パフォーマンス・アルバム賞を受賞。

4月、4度目の来日。

6月、アルバム「Grammy's Greatest Hits Vol.2」、「Pandora's Toys」発売。イギリスのモンスターズ・オヴ・ロックにトリとして出演。CD-Romゲーム「Quest For Fame」を発売。エアロスミスを主人公にしたゲーム機「Revolution X」がゲーム・センターに登場。

8月、ニューヨーク郊外でウッドストック2に出演。

初の南米ツアーを行なう。

11月、アルバム「Woodstock '94」、「Big Ones」、ボックス・セット「Box Of Fire」、ビデオ「Big Ones」発売。

12月、1年半に渡るゲット・ア・グリップ・ツアー終了。同月19日、ボストン市内に自分達がオーナーとなってクラブ「ママ・キン・ミュージック・ホール」をオープン。

#### 1995年

「ロックの殿堂」入りを果たすレッド・ツペリンに対して、スティーヴンとジョーがプレゼンターを務め、ライブ共演もする。「Crazy」でグラミー2部門受賞。

People's Choice Awardsで、2年連続「最も好きなロック・バンド」賞を受賞。

マサチューセッツ州文化庁より、「芸術貢献賞」を授与される。11月、ボストン市内のクラブ、「ミドル・イースト」と「ママ・キン」で、2夜に渡ってG-Spotsの仮名でシークレット・ギグを行なう。

#### 1996年

見解の相違からマネージャーのティム・コリンズと別れ、自分達でマーガス・エンターテインメントというマネージメント会社を設立。

第10回ボストン・ミュージック・アワードで、「過去10年における最優秀バンド賞」を受賞。

ニューヨークのマジソン・スクエア・ガーデンで行なわれた、ストーン・テンブル・パイロットの公演に、スティーヴンとジョーが飛び入り参加。

#### 1997年

1月から、新譜発売を控え、大々的なワールド・プロモ・ツアーに出る。世界各地でファンを招いてリスニング・パーティーを開く。

2月、プロモーション来日。

3月、古巣コロムビア・レコード(ソニー・ミュージック)から、通算12枚目のオリジナル・アルバム「Nine Lives」(邦題「ナイン・ライヴズ」)をリリース。

5月、ヨーロッパからワールド・ツアーをスタート。

アルバム「Merry Axemas - A Guitar Christmas」にジョー・ベリー参加。

7月、ボストンの郊外に、自分達がオーナーとなってレストラン「Mount Blue」をオープンさせる。

夏以降、全米ツアー。

10月、Stephen Daviesとの共作で、自伝「ウォーク・ディス・ウェイ」(ソニー・マガジズ社)を発表。ツアーの合間にニューヨーク、ロサンゼルスなどのタワー・レコードで、即売サイン会を開く。

#### 1998年

3月、5度目の来日。海外アーティスト初のドーム・ツアー敢行。4月29日、アラスカ州アンカレッジ公演のアンコール時に、スティーヴン粉砕裂傷の大怪我を負う。直後、ギブスを付けたまま、「I Don't Want To Miss A Thing」(邦題「ミス・ア・シング」)のビデオ撮影。

5月、スティーヴン手術を受け、半年間のリハビリ生活に入る。

6月、映画「Armageddon」全米公開(日本では年末)。サントラ盤「アルマゲドン」発売。セサミ・ストリート30周年企画盤「Elmopalooza!」(日本未発売)に、スティーヴン参加。

7月、夫人とディナーに出掛けたジョーイ・クレイマー、自宅にほど近いマサチューセッツ州シチュエイトにあるガソリン・スタンドで、給油中に火災事故に遭遇。車内にいた夫人はすぐ反対側から車外に出て無傷だったが、給油していたジョーイは腕に軽度の火傷を負い、愛車は全焼。8月末から予定されていた復帰ツアーは、ジョーイの全快を待たず、13公演が延期に。

9月、ニュージャージー州にて、スティーヴンとジョーイの復活ライブ。全米ツアー再開。

10月、2枚組ライブ盤「A South Of Sanity」(邦題「サウス・オブ・サニティ」)をリリース。

12月、恒例のボストンでのニュー・イヤーズ・イヴ公演で、ジョーイの火災事故をもじって、全員消防士スタイルでステージ登場。

#### 1999年

1月、スティーヴン、治療過程としての2度目の手術を受ける。再び3ヵ月間のリハビリ生活へ。

同月、運営を任せていた店長との見解の相違から、ボストンのオーナー・クラブ「ママ・キン・ミュージック・ホール」をクローズ。

アルバム「The Adventures Of Elmo In Grouchland」(邦題「エルモと毛布の大冒険」)に、スティーヴン参加。

4月11日、オハイオ州にて、スティーヴン完全復帰ライブ。

ボブ・マーリーのトリビュート・アルバム「Chant Down Babylon」で、スティーヴンとジョー、テープ録音を駆使して故人との共演を果たす。

5月末、全米ツアー終了。すぐにヨーロッパへ。

7月17日、ホルトガルのリスボンにて、ナイン・ライヴズ・ワールド・ツアー終了。フロリダ州オーランドのウォルト・ディズニーマウンテンディズニーマGMスタジオに、エアロスミスをフューチャーしたアトラクション「Rock'n Roller Coaster」が登場。オープニング・セレモニーに全員で参加。自らのマネージメント会社マーガス・エンターテインメントを開き、大手のHKマネージメントと契約。

年末、ミレニアム特別企画カウント・ダウン・ライブ「Roar Of The Dragon」ツアーを、日本で行なう。

#### 2000年

1月、日本で再度のドーム・ツアーを成功させる。

映画「Charlie's Angels」サントラ盤発売。

恒例となったグラミーで受賞。

ジョーの自宅スタジオをメインに、スティーヴンの自宅スタジオも利用しながら、地元でレコーディング開始。

ジョー、ザ・サウンド・キングのシングル「Invisible」に参加。

9月、ジョーの50歳の誕生日を、マウント・ブルーにてチープ・トリックを呼んで盛大に祝う。

11月、トム・ハミルトン、結婚25周年を迎える。

ドアーズのトリビュート・アルバム「Stoned Immaculate」発売。

#### 2001年

1月、ハリウッドのウォーク・オヴ・フェイムに星形を埋める。アメリカン・ミュージック・アワードで、長年の功績に対する特

#### 別賞受賞。

同月28日、第35回スーパーボウル、ハーフ・タイム・ショウで、「N SYNC、プリトニー・スピアーズらと共に共演。

3月、通算13枚目のオリジナル・アルバム「Just Push Play」(邦題「ジャスト・プッシュ・プレイ」)をリリース。同月19日、遂に「ロックの殿堂」入りを果たし、ニューヨークにてセレモニーが行なわれる。同月24日、プロモで渡欧。ドイツのミュンヘンでシークレット・クラブ・ギグを行なう。

3月末~4月、プロモーション来日。4月4日には、イベントMTV It's Your Partyに出演。

5月26日、地元マサチューセッツ州フォックスボローで行なわれたラジオ曲のフェスティバルに参加。

6月1日、ニューヨークのナッソー・コロシウムで行なわれたフェスティバル「ズートピア」に出演。翌日、マサチューセッツ州マンズフィールドで「KISSコンサート22」に出演。

同月6日、コネチカット州ハートフォードから遂に「Just Push Play」全米ツアースタート。

第1レグ、6/6~7/23(野外公演)。6月17日、ロサンゼルスで行なわれた2日連続フェスティバル「ワンゴ・タンゴ」2日目に出演。第2レグ、8/8~9/23(同)。

9月11日、米同時多発テロ勃発。当日を含む3公演がキャンセル又は延期を余儀なくされる。

第3レグ、10/11~1/15(屋内公演)。

10月21日、ワシントンDCで行なわれた同時多発テロ犠牲者へのチャリティー・イベント、「ユナイテッド・ウィー・スタンド」にベネフィット・コンサートに出演。同月27日から2週間、ステージで使用していたスモークが原因でスティーヴンが肺に炎症を起こした為、公演をキャンセル又は延期。11月12日にニューヨークにて復帰。

11月2日、ロサンゼルスで行なわれたビルボード・ミュージック・ビデオ・アワードにて、「ジェイデット」が最優秀ハード・ロック・ビデオ大賞を受賞。

#### 2002年

1月~2月、7度目の来日公演。

(1月25日・27日大阪ドーム/29日福岡ドーム

31日名古屋ドーム/2月2日・3日東京ドーム)

1973

**AEROSMITH / 野獣生誕(エアロスミスI)**

SRCS 9045 ¥1,631(tax incl.)

- |                                  |                                  |
|----------------------------------|----------------------------------|
| ① Make It<br>メイク・イット             | ⑥ Write Me A Letter<br>ライト・ミー    |
| ② Somebody<br>サムバディ              | ⑦ Movin' Out<br>ムーヴィン・アウト        |
| ③ Dream On<br>ドリーム・オン            | ⑧ Walkin' The Dog<br>ウォーキン・ザ・ドッグ |
| ④ One Way Street<br>ワン・ウェイ・ストリート |                                  |
| ⑤ Mama Kin<br>ママ・キン              |                                  |

1974

**GET YOUR WINGS / 飛べ!エアロスミス**

SRCS 9046 ¥1,631(tax incl.)

- |   |   |
|---|---|
| ① Same Old Song And Dance<br>セიმ・オールド・ソング・アンド・ダンス | ⑥ Train Kept A Rollin'<br>トレイン・ケプト・ア・ローリン |
| ② Lord Of The Thighs<br>支配者の女                     | ⑦ Seasons Of Wither<br>折れた翼               |
| ③ Spaced<br>四次元飛行船                                | ⑧ Pandora's Box<br>パンドラの箱                 |
| ④ Woman Of The World<br>悪いコートを着た女                 |   |
| ⑤ S.O.S. (Too Bad)<br>エアロスミス、S.O.S.               |   |

1975

**TOYS IN THE ATTIC / 闇夜のヘヴィ・ロック**

SRCS 9047 ¥1,631(tax incl.)

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| ① Toys In The Attic<br>闇夜のヘヴィ・ロック       | ⑥ Sweet Emotion<br>スウィート・エモーション |
| ② Uncle Salty<br>ソルティおじさん               | ⑦ No More No More<br>戻れない       |
| ③ Adam's Apple<br>アダムリンゴ                | ⑧ Round And Round<br>虚空に切り離されて  |
| ④ Walk This Way<br>ウォーク・デイズ・ウェイ         | ⑨ You See Me Crying<br>僕を泣かせないで |
| ⑤ Big Ten Inch Record<br>イカした10インチ・レコード |                                 |

1976

**ROCKS / ロックス**

SRCS 9048 ¥1,631(tax incl.)

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| ① Back In The Saddle<br>バック・イン・ザ・サドル | ⑥ Nobody's Fault<br>ノーバディズ・フォルト        |
| ② Last Child<br>ラスト・チャイルド            | ⑦ Get The Lead Out<br>ゲット・ザ・リード・アウト    |
| ③ Rats In The Cellar<br>地下室のドブぬすみ    | ⑧ Lick And A Promise<br>リック・アンド・ア・プロミス |
| ④ Combination<br>コンビネーション            | ⑨ Home Tonight<br>ホーム・トゥナイト            |
| ⑤ Sick As A Dog<br>シック・アズ・ア・ドッグ      |  |

1977

**DRAW THE LINE / ドロー・ザ・ライン**

SRCS 9049 ¥1,631(tax incl.)

- |  |   |
|--|---|
| ① Draw The Line<br>ドロー・ザ・ライン           | ⑥ Kings And Queens<br>キングズ・アンド・クイーンズ    |
| ② I Wanna Know Why<br>アイ・ワナ・ノウ・ホワイ     | ⑦ The Hand That Feeds<br>ザ・ハンド・ザット・フィーズ |
| ③ Critical Mass<br>クリティカル・マス           | ⑧ Sight For Sore Eyes<br>サイト・フォー・ソア・アイズ |
| ④ Get It Up<br>ゲット・イット・アップ             | ⑨ Milk Cow Blues<br>ミルク・カウ・ブルース         |
| ⑤ Bright Light Fright<br>ブライト・ライト・フライト |   |

1978

**LIVE! BOOTLEG / ライヴ・ブートレグ**

SRCS 9050 ¥1,631(tax incl.)

- |                                      |  |  |
|--------------------------------------|--|--|
| ① Back In The Saddle<br>バック・イン・ザ・サドル | ⑦ Walk This Way<br>ウォーク・デイズ・ウェイ          | ⑬ S.O.S.<br>エアロスミス、S.O.S.  |
| ② Sweet Emotion<br>スウィート・エモーション      | ⑧ Sick As A Dog<br>シック・アズ・ア・ドッグ          | ⑭ I Ain't Got You<br>アイ・エイント・ガット・ユー  |
| ③ Lord Of The Thighs<br>支配者の女        | ⑨ Dream On<br>ドリーム・オン                    | ⑮ Mother Popcorn<br>マザー・ポップコーン   |
| ④ Toys In The Attic<br>闇夜のヘヴィ・ロック    | ⑩ Chip Away The Stone<br>チップ・アウェイ・ザ・ストーン | ⑯ Train Kept A Rollin' /<br>Strangers In The Night<br>トレイン・ケプト・ア・ローリン /<br>夜のストレンジャー |
| ⑤ Last Child<br>ラスト・チャイルド            | ⑪ Sight For Sore Eyes<br>サイト・フォー・ソア・アイズ  |  |
| ⑥ Come Together<br>カム・トゥゲザー          | ⑫ Mama Kin<br>ママ・キン                      |  |



1979



## NIGHT IN THE RUTS / ナイト・イン・ザ・ラッツ

SRCS 9051 ¥1,631(tax incl.)

- |  |   |
|--|---|
| ① No Surprise<br>ノー・サブライズ                                  | ③ Reefer Head Woman<br>リーファー・ヘッド・ウーマン   |
| ② Chiquita<br>チキータ   | ⑦ Bone To Bone<br>(Coney Island White Fish Boy)<br>ボーン・トゥ・ボーン(コニー・アイランド・ホ<br>ワイト・フィッシュ・ボーイ) |
| ④ Remember (Walking In The Sand)<br>リメンバー(ウォーキング・イン・ザ・サンド) | ⑧ Think About It<br>シンク・アバウト・イット  |
| ⑤ Cheese Cake<br>チーズ・ケーキ                                   | ⑨ Mia<br>ミア   |
| ⑥ Three Mile Smile<br>スリー・マイル・スマイル                         |   |

1980



## AEROSMITH'S GREATEST HITS グレイテスト・ヒッツ

SRCS 9006 ¥1,835(tax incl.)

- |   |                                      |   |
|---|--------------------------------------|---|
| ① Dream On<br>ドリーム・オン                                   | ⑤ Last Child<br>ラスト・チャイルド            | ⑩ Remember<br>(Walking In The Sand)<br>リメンバー<br>(ウォーキング・イン・ザ・サンド) |
| ② Same Old Song And<br>Dance<br>セム・オールド・ソング・アン<br>ド・ダンス | ⑥ Back In The Saddle<br>バック・イン・ザ・サドル |   |
| ③ Sweet Emotion<br>スウィート・エモーション                         | ⑦ Draw The Line<br>ドロー・ザ・ライン         |   |
| ④ Walk This Way<br>ウォーク・ディス・ウェイ                         | ⑧ Kings And Queens<br>キングズ・アンド・クイーンズ |   |
|   | ⑨ Come Together<br>カム・トゲザー           |   |

1982



## ROCK IN A HARD PLACE / 美獣乱舞

SRCS 9052 ¥1,631(tax incl.)

- |                                      |   |  |
|--------------------------------------|---|--|
| ① Jailbait<br>ジェイルバイト                | ⑤ Cry Me A River<br>クライ・ミー・ア・リヴァー                             | ⑧ Jig Is Up<br>ジグ・イズ・アップ                 |
| ② Lightning Strikes<br>ライトニング・ストライクス | ⑥ Prelude To Joanie<br>プレリュード(ジョーニーに捧ぐ)                       | ⑩ Push Comes To Shove<br>プッシュ・カムズ・トゥ・ショヴ |
| ③ Bitch's Brew<br>ビッチズ・ブリュー          | ⑦ Joanie's Butterfly<br>ジョーニーズ・バタフライ                          |  |
| ④ Bolivian Ragamuffin<br>坊癒えるポリウィアン  | ⑧ Rock In A Hard Place<br>(Cheshire Cat)<br>ロック・イン・ア・ハード・プレイス |  |

1986



## CLASSICS LIVE / ライヴ・クラシックス

SRCS 9053 ¥1,631(tax incl.)

- |   |  |
|---|--|
| ① Train Kept A Rollin'<br>トレイン・ケプト・ア・ローリン | ⑥ Three Mile Smile/<br>Reefer Head Woman<br>メドレー:スリー・マイル・スマイル〜<br>リーファー・ヘッド・ウーマン |
| ② Kings And Queens<br>キングズ・アンド・クイーンズ      | ⑦ Lord Of The Thighs<br>支配者の女  |
| ③ Sweet Emotion<br>スウィート・エモーション           | ⑧ Major Barbra<br>メイジャー・バーブラ   |
| ④ Dream On<br>ドリーム・オン                     |  |
| ⑤ Mama Kin<br>ママ・キン                       |  |

1987



## CLASSICS LIVE II / ライヴ・クラシックスII

SRCS 9054 ¥1,631(tax incl.)

- |  |   |
|--|---|
| ① Back In The Saddle<br>バック・イン・ザ・サドル             | ⑥ Last Child<br>ラスト・チャイルド               |
| ② Walk This Way<br>ウォーク・ディス・ウェイ                  | ⑦ Let The Music Do The Talking<br>無く語れ! |
| ③ Movin' Out<br>ムーヴィン・アウト                        | ⑧ Toys In The Attic<br>闇夜へのハイ・ロック       |
| ④ Draw The Line<br>ドロー・ザ・ライン                     |   |
| ⑤ Same Old Song And Dance<br>セム・オールド・ソング・アンド・ダンス |   |

1988



## GEMS ~The Best Of Aerosmith's Hard Rock Hits!

SRCS 9007 ¥1,835(tax incl.)

- |  |                                  |   |
|--|----------------------------------|---|
| ① Rats In The Cellar<br>地下室のドブねずみ        | ⑤ Adam's Apple<br>アダムのリンゴ        | ⑩ Jailbait<br>ジェイルバイト                     |
| ② Lick And A Promise<br>リック・アンド・ア・プロミス   | ⑥ Nobody's Fault<br>ノーバディズ・フォールト | ⑪ Train Kept A Rollin'<br>トレイン・ケプト・ア・ローリン |
| ③ Chip Away The Stone<br>チップ・アウェイ・ザ・ストーン | ⑦ Round And Round<br>虚空に切り離されて   |   |
| ④ No Surprise<br>ノー・サブライズ                | ⑧ Critical Mass<br>クリティカル・マス     |   |
| ⑤ Mama Kin<br>ママ・キン                      | ⑨ Lord Of The Thighs<br>支配者の女    |   |



## PANDORA'S BOX / バンドラの箱

SRCS 7321-7323 ¥6,627(tax incl.)

### (Disc1)

- 1 When I Needed You  
ウェン・アイ・ニーデッド・ユー
- 2 Make It  
メイク・イット
- 3 Movin' Out  
ムーヴィン・アウト
- 4 One Way Street  
ワン・ウェイ・ストリート
- 5 On The Road Again  
オン・ザ・ロード・アゲイン
- 6 Mama Kin  
ママ・キン
- 7 Same Old Song And Dance  
セーム・オールド・ソング・アンド・ダンス
- 8 Train Kept A Rollin'  
トレイン・ケプト・ア・ローリン
- 9 Seasons Of Wither  
折れた翼
- 10 Write Me A Letter  
ライト・ミー・ア・レター
- 11 Dream On  
ドリーム・オン
- 12 Pandora's Box  
バンドラの箱
- 13 Rattlesnake Shake  
ラトルスネーク・シェイク
- 14 Walkin' The Dog  
ウォーキン・ザ・ドッグ
- 15 Lord Of The Thighs  
支配者の女

### (Disc2)

- 1 Toys In The Attic  
闇夜のヘヴィ・ロック
- 2 Round And Round  
虚空に切り離されて
- 3 Krawitham  
KRAWITHAM
- 4 You See Me Crying  
僕を泣かせないで
- 5 Sweet Emotion  
スイート・エモーション
- 6 No More No More  
戻れない
- 7 Walk This Way  
ウォーク・ディス・ウェイ
- 8 I Wanna Know Why  
アイ・ウォナ・ノウ・ホワイ
- 9 Big Ten-Inch Record  
イカした10インチ・レコード
- 10 Rats In The Cellar  
地下室のドブねずみ
- 11 Last Child  
ラスト・チャイルド
- 12 All Your Love  
オール・ユア・ラヴ
- 13 Soul Saver  
ソウル・セイヴァー
- 14 Nobody's Fault  
ノーバディズ・フォルト
- 15 Lick And A Promise  
リック・アンド・ア・プロミス
- 16 Adam's Apple  
アダムのリンゴ
- 17 Draw The Line  
ドロウ・ザ・ライン
- 18 Critical Mass  
クリティカル・マス

### (Disc3)

- 1 Kings And Queens  
キングス・アンド・クイーンズ
- 2 Milkcow Blues  
ミルクカウ・ブルース
- 3 I Live In Connecticut  
アイ・リヴ・イン・コネチカット
- 4 Three Mile Smile  
スリー・マイル・スマイル
- 5 Let It Slide  
レット・イット・スライド
- 6 Cheese Cake  
チーズ・ケーキ
- 7 Bone To Bone  
(Coney Island White Fish Boy)  
ボーン・トゥ・ボーン(コニー・アイランド・ホワイト・フィッシュ・ボーイ)
- 8 No Surprise  
ノー・サプライズ
- 9 Come Together  
カム・トゥゲザー
- 10 Downtown Charlie  
ダウントウン・チャーリー
- 11 Sharpshooter  
シャープシューター
- 12 Shit House Shuffle  
シット・ハウス・シャッフフル
- 13 South Station Blues  
サウス・ステーション・ブルース
- 14 Rife & Roll  
リフ&ロール
- 15 Jailbait  
ジェイルベイト
- 16 Major Barbara  
メジャー・バーバラ
- 17 Chip Away The Stone  
チップ・アウェイ・ザ・ストーン
- 18 Helter Skelter  
ヘルター・スケルター
- 19 Back In The Saddle  
バック・イン・ザ・サドル
- 20 Circle Jerk  
サークル・ジャーク



## PANDORA'S TOYS / バンドラズ・トイズ

SRCS 7341 ¥2,345(tax incl.)

- |   |   |   |
|---|---|---|
| 1 Sweet Emotion<br>スイート・エモーション            | 6 Mama Kin<br>ママ・キン                     | 11 Helter Skelter<br>ヘルター・スケルター           |
| 2 Draw The Line<br>ドロウ・ザ・ライン              | 7 Nobody's Fault<br>ノーバディズ・フォルト         | 12 Chip Away The Stone<br>チップ・アウェイ・ザ・ストーン |
| 3 Walk This Way<br>ウォーク・ディス・ウェイ           | 8 Seasons Of Wither<br>折れた翼             |   |
| 4 Dream On<br>ドリーム・オン                     | 9 Big Ten-Inch Record<br>イカした10インチ・レコード |   |
| 5 Train Kept A Rollin'<br>トレイン・ケプト・ア・ローリン | 10 All Your Love<br>オール・ユア・ラヴ           |   |

※CD3枚組BOXセット“バンドラの箱”からベスト選曲した全12曲



## NINE LIVES / ナイン・ライヴズ

SRCS 8263 ¥2,345(tax incl.)

- |   |   |   |
|---|---|---|
| 1 Nine Lives<br>ナイン・ライヴズ  | 6 Something's Gotta Give<br>サムシングス・ガッタ・ギヴ     | 12 Falling Off<br>フォーリング・オフ<br>(ホーナズ・トラック)          |
| 2 Falling In Love<br>(Is Hard On The Knees)<br>フォーリング・イン・ラヴ<br>(イソ・ハード・オン・ザ・クニーズ) | 7 Ain't That A Bitch<br>エイント・ザット・ア・ビッチ        | 13 Fall Together<br>フォール・トゥゲザー<br>(日本盤のみのホーナズ・トラック) |
| 3 Hole In My Soul<br>ホール・イン・マイ・ソウル  | 8 The Farm<br>ファーム                            | 14 Attitude Adjustment<br>アティチュード・アジャストメント          |
| 4 Taste Of India<br>テイスト・オブ・インディア   | 9 Crash<br>クラッシュ                              | 15 Fallen Angels<br>フォーリン・エンジェルズ                    |
| 5 Full Circle<br>フル・サークル  | 10 Kiss Your Past Good-Bye<br>キス・ユア・パスト・グッドバイ |   |
|   | 11 Pink<br>ピンク                                |   |

1997



## GREATEST HITS 1973-1988 グレイテスト・ヒッツ 1973~1988

SRCS 8315 ¥2,345 (tax incl.)

- |  |   |   |
|--|---|---|
| ① Dream On<br>ドリーム・オン                            | ⑧ Last Child<br>ラスト・チャイルド   | ⑬ Lightning Strikes<br>ライトニング・ストライクス                                      |
| ② Mama Kin<br>ママ・キン                              | ⑨ Back In The Saddle<br>バック・イン・ザ・サドル                              | ⑭ Chip Away The Stone<br>チップ・アウェイ・ザ・ストーン                                  |
| ③ Same Old Song And Dance<br>セム・オールド・ソング・アンド・ダンス | ⑩ Draw The Line<br>ドロー・ザ・ライン                                      | ⑮ Sweet Emotion<br>(1991 Thoenex Remix)<br>スウィート・エモーション<br>(1991ソナーリミックス) |
| ④ Seasons Of Wither<br>シーズ・オブ・ウィザー               | ⑪ Kings And Queens<br>キングス・アンド・クイーンズ                              | ⑯ One Way Street(Live)<br>ワン・ウェイ・ストリート(Live)                              |
| ⑤ Sweet Emotion<br>スウィート・エモーション                  | ⑫ Come Together<br>カム・トゥゲザー                                       |   |
| ⑥ Walk This Way<br>ウォーク・ディス・ウェイ                  | ⑬ Remember<br>(Walking In The Sand)<br>リメンバー<br>(ウォーキング・イン・ザ・サンド) |   |
| ⑦ Big Ten-Inch Record<br>ビッグ10インチ・レコード           |   |   |

1998



## ORIGINAL SOUNDTRACK ARMAGEDDON THE ALBUM アルマゲドン(サウンドトラック)

SRCS 8697 ¥2,520 (tax incl.)

- ① I Don't Want To Miss A Thing  
ミス・ア・シング
- ② What Kind A Love You On  
ホワット・カインド・ア・ラヴ・ユー・オン
- ③ Sweet Emotion  
スウィート・エモーション
- ④ Come Together  
カム・トゥゲザー
- ⑤ Animal Crackers -by Steven Tyler  
アニマル・クラッカーズ

2001



## JUST PUSH PLAY / ジャスト・プッシュ・プレイ

SRCS 2440 ¥2,520 (tax incl.)

- |   |  |   |
|---|--|---|
| ① Beyond Beautiful<br>ビヨンド・ビューティフル      | ⑥ Sunshine<br>サンシャイン                   | ⑪ Light Inside<br>ライト・インサイド                 |
| ② Just Push Play<br>ジャスト・プッシュ・プレイ       | ⑦ Under My Skin<br>アンダー・マイ・スキン         | ⑫ Avant Garden<br>アヴァント・ガーデン                |
| ③ Jaded<br>ジェイデッド                       | ⑧ Luv Lies<br>ラヴ・ライズ                   | ⑬ Won't Let You Down*<br>ウォント・レット・ユー・ダウン    |
| ④ Fly Away From Here<br>フライ・アウェイ・フロム・ヒア | ⑨ Outta Your Head<br>アウト・ユア・ヘッド        | ⑭ I Don't Want To Miss A Thing*<br>ミス・ア・シング |
| ⑤ Trip Hoppin'<br>トリップ・ホッピング            | ⑩ Drop Dead Gorgeous<br>ドロップ・デッド・ゴージャス |   |

\*日本のみのボーナストラック

2001



## THE MAKING OF PUMP / メイキング・オブ・パンプ

DVD : SRBS 1410 ¥5,775 (tax incl.)

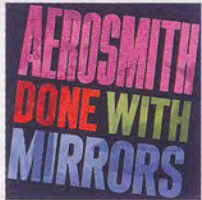
APPROX 109min.

アルバム「パンプ」からの楽曲をフィーチャーしたレコーディング風景やインタビュー映像。世界中のファンを興奮させたこのアルバムが半年間にわたっていかに制作されたかが繰られるメイキング・ドキュメンタリー。さらに未公開のジャム・シーンやスティヴン・タイラーをはじめメンバーのインタビューなども収録。あらゆる角度からバンドの姿やメンバーの素顔を追う全110分の大作! アルバム「PUMP」は1989年9月12日に全米にて発売され、初回出荷から既にプラチナを記録。このビデオは1990年にリリースされたもののDVD化です。



日本語・英語字幕入り。  
リニアPCMステレオ&ドルビー-5.1サラウンド

1985



DONE WITH MIRRORS

1987



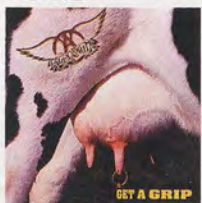
PERMANENT VACATION

1989



PUMP

1993



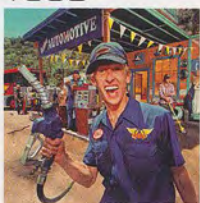
GET A GRIP

1995



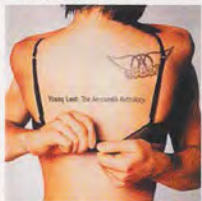
BIG ONES

1998



A LITTLE SOUTH OF SANITY

2001



YOUNG LUST - The Aerosmith Anthology



DISCOGRAPHY